

## デジタル化に振り回される現金

神村ふじを

ロシアのウクライナ侵攻から今日で110日（6月13日）目となった。毎日ウクライナのことばかりになってしょうがない。ウクライナ軍の兵士が毎日100人ずつ亡くなっているとゼレンスキー大統領が述べていたが、ロシア軍はそれ以上の数なのだろう。学校が狙われ一般市民が標的にされている様子を見るに付け、帰着点がまるで見えない戦争の理不尽さ、無意味さを痛感する日々である。

世はデジタル社会がいつそう進み、アナログ人間にとっては住みにくくなりつつあるが、パソコンやスマホを使いこなせなければ、取り残されるのは目に見えている。世の流れに必死に食らいついていこうとする自分がある。でも、使いこなすまではいかなくて、ようよう何とかしがみついているという感じである。

この前など、スマホの充電切れが異常に早くなったので、携帯ショップに行ってみたら、新しい機種への交換を勧められた。電池を交換するのに意外と金がかかり、それならば新しい機種へ交換、とうまく仕組みが作られていると感じたものだ。ようやく今のスマホに慣れてきたところなのに……。備わっている機能の4分の1も使いこなせずにいるうちにもうお釈迦である。

役所でも電子行政を進めることが至上命題のようになっており、例えば、コンビニで納税を済ませることができたり、マイナンバーカードがあれば、住民票なども発行できるように進んできている。時間的制約のある役所の窓口業務が改善されつつあると言っているのだが、役所の事務委託経費が大きく嵩んでくるということに頭を悩ませているという実態もある。

現金を扱うことのリスクを避ける意味と、持ち歩くことの煩雑さ、数え間違いなどのミスを防ぐ意味でも、キャッシュレスで決済することがだいぶ進んできた。

考えてみれば、給与の現金支給から通帳への振り込みはまさにキャッシュレスの走りだったと思うが、そうなるからもう優に25年以上経過したように思う（都会の方はもっと早かったのかもされない）。あのときは、現金支給の質感が味わえなくて、ありがたみがなくなったと感じたものである。

まだ、キャッシュレスという言葉は一般的ではなくて、すぐさま銀行から生活費を引き出して現金化していたので、職場から現金でもらうという行為が、銀行から現金を引き出すという行為に変わったただけだったので、今とはずいぶん様子が違っていたようだ。

山口県阿武町における給付金4630万円の誤送金問題は、ニュースでもネットでも取り上げられ、ウクライナ情勢以上に話題になった。

誤送金された4630万円は、1世帯当たり10万円を支給する新型コロナ対策の臨時特別給付金だったと言う。つまり463世帯分の給付金だったのだが、担当職員が銀行へ振込依頼書を提出する際、田口翔容疑者の氏名しか記載しなかったため、田口容疑者にのみ4630万円が振り込まれたのだ。彼の口座残高は665円しかなかったそうなので、一気に4630万665円の大金持ちになったのだ。

田口容疑者についてネットでは、お金に対する執着心が異常に強かったとあり、小学校の卒業文集には、地球最後の日が来たら、「持ち金をつかいはたす」もしもタイムマシンがあったなら、「口ト6のばんごうをみらいにみにいく」将来の夢は、「造へい局のしょくいん」と書かれていたと話題になっている。

通帳への入金はあまりに現実離れしていて、目の前に量として現金を見ることができなかったため、仮想現実レベルとして4630万円を扱ってしまい、ネットカジノにつき込む結果となってしまうのではないかと思っている。

私なら、まず30万円を手元に置いて、それから益子か常滑の大ぶりの甕を買って来る。そして帯封の付いた100万円46束を丁寧に並べて入れて、水が入らないように蓋をしっかりと閉め、裏の桜

の木の下に埋める。それでも手元には29万円くらいは残っているはずだ。あつとその前に、寝床の布団の下に札束を並べてみて、一晩寝てみることをしてみたい。甕に入れるのはそれからだ。

4630万円の現金そのものを目の当たりにしたならば、ネットカジノのような数字で動く世界に陥ってしまうことなどないのではないかと思ってしまう。改めてデジタルの弱さ、アナログの強さを実感した次第である。

こうなってくると、お金を稼ぐ意味、数字でない現金の重み、苦勞して手に入れたお金。この時代だからこそ金銭教育の大事さを思わずにはいられない。金銭教育は物やお金を大切にすることを通じて、お金や労働の価値を知ることにある。引いては人間形成の土台作りに繋がる。

今となつては夢のような話だが、ボーナスが現金支給された時代は、高度経済成長の時期と重なって、人事院勧告が毎年のように完全実施され、ベースアップされてきた。その結果、勧告から遡って4月の分から差額が支給されることになり、ひと月の給与分くらいもらえることもあった。

私の勤めた学校では、教頭が冗談半分に、「片手で給与袋を持ってみたらよ（持ってみたら）、重くて空腕（軽い筋肉痛）起きてすまたけは（起きてしまった）……」とか教務主任は「机の上の袋を横に立ててみたらよ（立ててみたら）、立ってすまたけは（立ってしまった）……」などと言っていたことを懐かしく思い出す。